

※原稿は、質問した議員の責任において作成したものです。



中植 昭彦

町内移動手段（外出支援）の確保

高齢社会を迎えるに伴い、高齢者の外出を促進することの意義にますます注目が集まっている。積極的に外出することによって身体面や精神面で良い影響がもたらされ、その結果、社会的にも介護費・医療費などのコスト削減、地域活性化や消費拡大などの効果が期待されている。

【問】移動手段の確保について考えを問う。

【答】本町において高齢者をはじめとする住民の移動手段を確保していくことは、重要な政策課題であると認識している。多様なユーチューズの中で持続可能な交通システムを構築していくためには、関係事業者等との連携が必不可少である。今年度、

複数の地域で取り組まれている集落間連携組織との連携を図りながら、よりよい地域交通のあり方を検討していきたい。

【問】スクールバスの昼間利用について考え方を問う。

【答】現在、10台のスクールバスを見童生徒の登下校やクラブ活動、また、課外活動等の教育活動において活用しており、児童生徒の登校後、夕方まで定常的に運行を行っている。現時点では困難はあるが、段階的に検討していくべきものと考える。

【問】現在の公共交通空白地有償運送は料金が高額になる。負担軽減策についての考え方を問う。

【答】料金のこともあるが、利用者数は減少している。現状の対策は、例えば上限料金を設定するなどの方針で検討していきた

い。

その他、電動アシスト自転車、シニアカーの充電ステーション設置やシニアカー導入支援などについて質問した。

【答】土地改良区主導の円滑化事業等により、経営規模の拡大を支援していくが、公社、公の団体等が受け皿となる組織の整備が必要と考える。

「物産センター」の整備・拡大を図り、営農部門等を強化し、公社的な運営を考えている。

しかし、急に全ての制度の確立は難しく、土地改

良区、農協等と連携して、持続可能な森林資源の利活用促進に向け、間伐材等による「小規模なバイオマス発電」の取組みを考えているが、その構想はどのようなものか。

【答】能勢の8割を占める山を有効利用したい。また、持ち主が、たとえわずかでも山の恵みを享受できればとの思いがベ



木戸 俊治

本町の農林業基盤の維持・活性化を問う

農業公社設立構想

「物産センター」がコードスである。

イネット役となり、農地ガス化により小規模の貸し借り等の斡旋、調整をやりたい。それには、

われる。

課題は、いかにして維

持し継続的にやっていく

かであり、燃料が供給で

きる状況を整理し取り掛

かりたいと思っている。

かかる。

こと

が

ある。

こと

が

ある。